

補強提案書

【耐震診断法の適用範囲について】

- ・本ソフトは、3階建てまでの在来軸組構法、伝統的構法、桝組壁工法の木造住宅、（学校校舎、体育館、幼稚園舎などの大規模木造建築物を含む）、立面的な混構造（1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造）の建物の木造部分を想定して作成されています。
- ※耐震診断法は、比較的矩形な総2・3階建てを想定して作成されています。そのため、2階が二つに分かれている建物や、平面形状がコの字型など、著しく不整形な建物について、本プログラムで診断することは不適切です。
- ※下記の建物は適用範囲外です。
 - 丸太組構法、旧38条認定および型式適合認定によるプレハブ工法住宅、平面的な混構造、スキップフロア

【本ソフトの適用範囲について】

- ・本ソフトでの耐震診断は、階高3.4m程度までの建物について適用して下さい。

【結果を読むに当たっての注意事項】

- ・本診断書における在来軸組構法・桝組壁工法診断時の「その他の耐震要素の耐力 Q_e 」は、有開口壁長より算出しています。
- ・N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

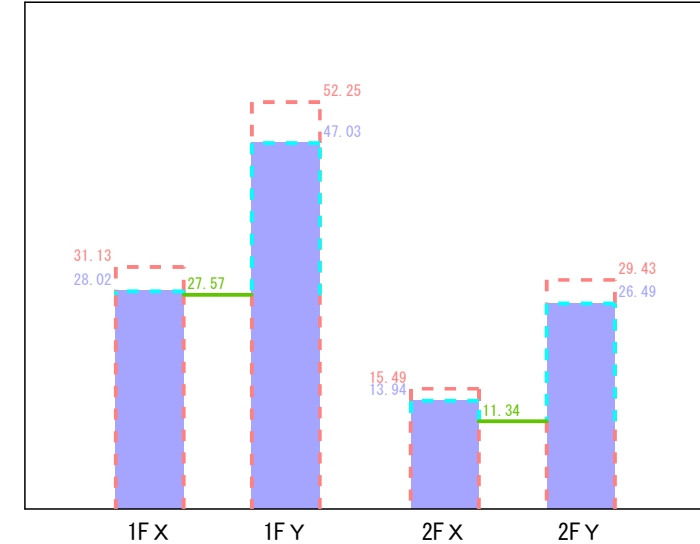
株式会社高橋住建
〒607-8131 京都市山科区大塚南溝町20番地24
TEL 075-583-3636 FAX 075-592-1788

総合評価

あなたの家の強さ(保有・必要耐力)

単位: kN

Qu 必要耐力 ——— 壁・柱の耐力 - - - - 保有耐力



上部構造評点のうち最低の値	評点	判定
1.01	1.5以上	◎ 倒壊しない
	1.0以上~1.5未満	○ 一応倒壊しない
	0.7以上~1.0未満	△ 倒壊する可能性がある
	0.7未満	× 倒壊する可能性が高い

◆建物概要

建物名称	サンプル 様邸			
建築地	京都府京都市北区	建物階数	2	
備考		診断の方法	方法 1	
構法	在来軸組構法	低減係数E	偏心率	
1階構造種別	木造	軟弱地盤割増係数	1.0	
外壁材種	木ずり下地モルタル塗り	竣工年月	1964年(昭和39年)	
基礎仕様	無筋コンクリート	築年数	築10年以上	
柱頭柱脚接合部	Ⅲ,Ⅳほぞ差し、釘打ち、かすがい等	建物重量	軽い	
下屋部低減係数	平屋建てもしくは最上階として計算する	混構造割増係数	1.0	
必要耐力計算表	精算法(各階の床面積比を考慮した方法)	積雪	0.0	
床仕様	Ⅱ 火打ち+荒板(想定床倍率0.5以上1.0未満)	地域係数Z	1.0	
床面積	2階	28.99㎡ (8.76坪)	形状割増	2階 4m以上6m未満
	1階	39.75㎡ (12.02坪)	短辺の長さ	1階 4m以上6m未満

■上部構造の評価

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置 eKf1	劣化度 dK	保有耐力 (kN) edQu=Qu・eKf1・dK	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	判定
2F	X	15.49	1.0000	0.9000	13.94	11.34	1.22	一応倒壊しない
	Y	29.43	1.0000	0.9000	26.49	11.34	2.33	倒壊しない
1F	X	31.13	1.0000	0.9000	28.02	27.57	1.01	一応倒壊しない
	Y	52.25	1.0000	0.9000	47.03	27.57	1.70	倒壊しない

注意事項: 地盤・基礎

地盤・地形・基礎	対策	注意事項
地盤:よい・普通		特に問題はありません。
地形:平坦		特に問題はありません。
基礎:無筋コンクリート	健全	特に問題はありません。

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

地盤・基礎

地盤	対策	記入欄	注意事項
よい/普通		○	特に問題はありません。
悪い			
非常に悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている 杭基礎である 特別な対策を行っていない		

地形	対策	記入欄	注意事項
平坦・普通		○	特に問題はありません。
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積 特別な対策を行っていない		

基礎形式		記入欄	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全	○	特に問題はありません。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固め・底盤		
	足固めなし		
その他 (ブロック基礎等)			

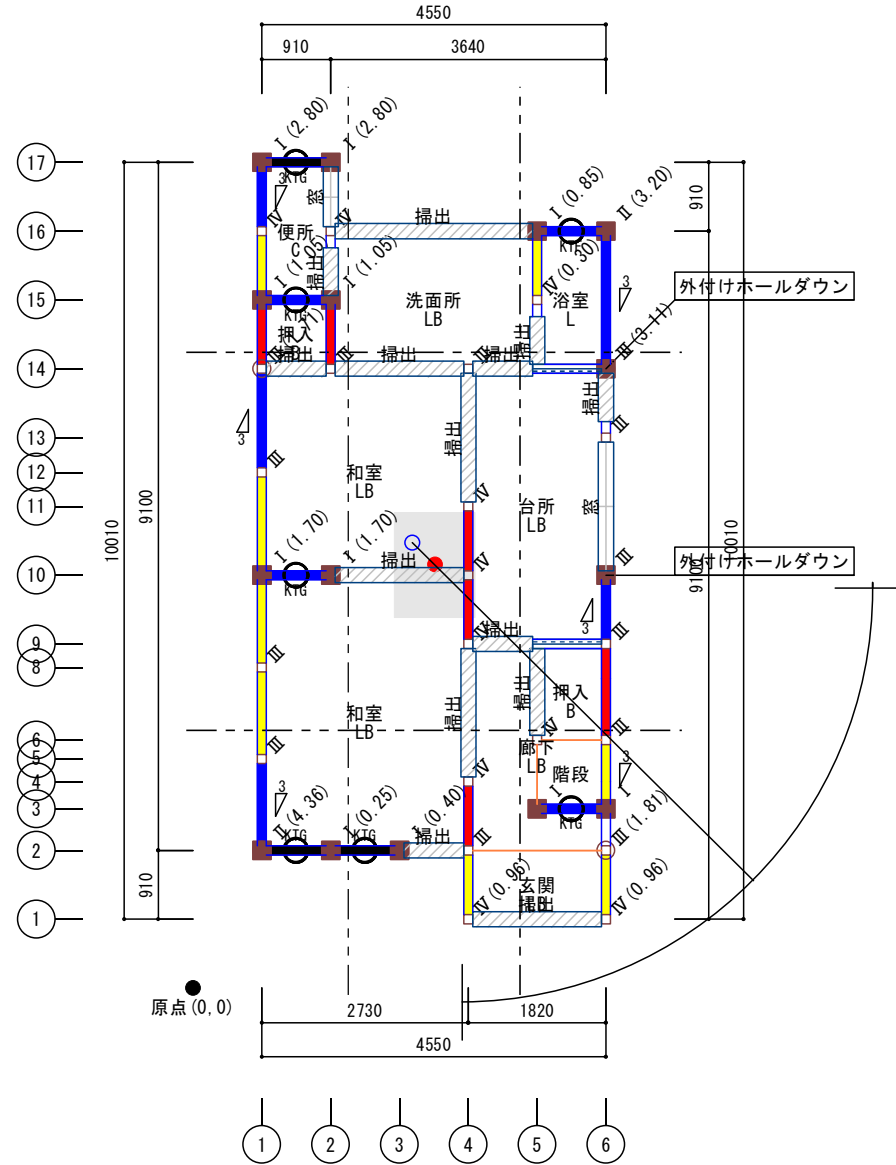
サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階平面図



- 凡例
- Y KTF: ⑥まどつよしF[2.9kN/m]
 - KTG: ⑦NEWかべつよし真壁G[5.6kN/m]
 - C: 石膏ボード張り(厚9以上)[1.1kN/m]
 - B: 【診断専用】合板(厚3未満)[0kN/m]
 - M: 木ずり下地モルタル塗り[2.2kN/m]
 - LB: 【診断専用】ラスボード[1kN/m]
 - L: ラスシートモルタル塗り[2.5kN/m]
 - 3: 【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち[1.9kN/m]
- X

壁基準耐力 (kN/m)	色
赤 3.0未満	赤
黄 3.0~5.0未満	黄
青 5.0~7.0未満	青
黒 7.0~	黒

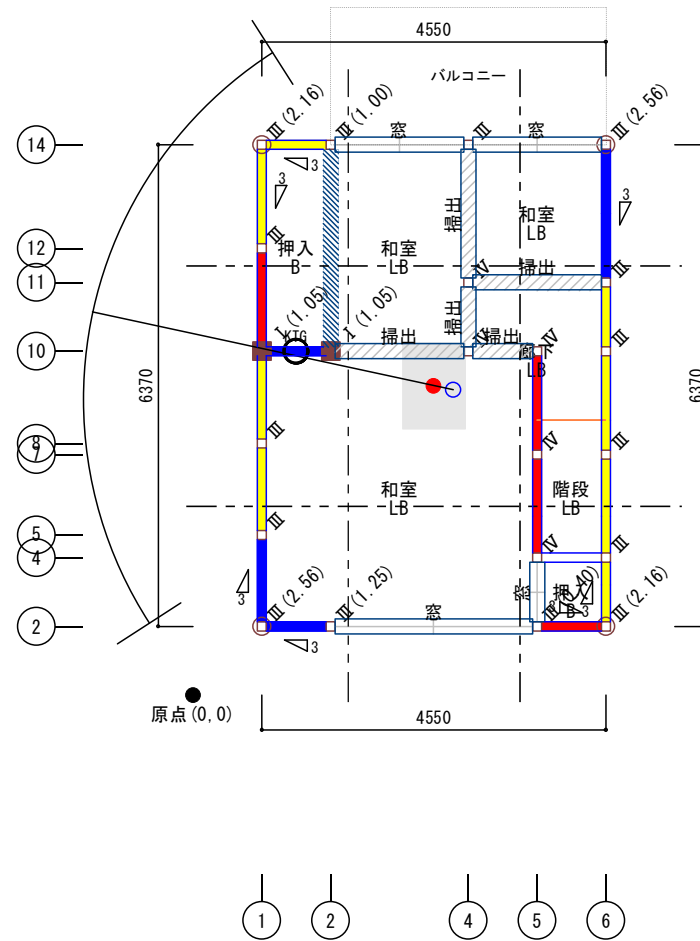
サンプル 様邸

診断書作成日時: 2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

2階平面図



- 凡例
- B: 【診断専用】合板(厚3未満) [0kN/m]
 - M: 木ずり下地モルタル塗り [2.2kN/m]
 - LB: 【診断専用】ラスボード [1kN/m]
 - KTG: ⑦NEWかべつよし真壁G [5.6kN/m]
 - 3: 【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち [1.9kN/m]

- 壁基準耐力 (kN/m)
- 赤 3.0未満
 - 黄 3.0~5.0未満
 - 青 5.0~7.0未満
 - 黒 7.0~

サンプル 様邸

診断書作成日時: 2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

必要耐力の算出 [軽い建物]

	床面積 (m ²)		床面積あたり 必要耐力 (kN/m ²)		積雪用 必要耐力 (kN/m ²)		地域係数 Z		軟弱地盤 割増係数		形状 割増係数		混構造 割増係数		必要耐力 Q _r (kN)
2階	28.99	×	0.3909	+	0.0000)	1.0	×	1.0	×	1.00	×	1.0	=	11.34
1階	39.75		0.6031		0.0000						1.15				27.57

床面積当たりの必要耐力算出根拠

$$Rf1 = 2 \text{階床面積} / 1 \text{階床面積} = 0.7293$$

$$QKf12 = 1.3 + 0.07/Rf1 = 1.3960$$

$$QKf11 = 0.4 + 0.6 \cdot Rf1 = 0.8376$$

$$2 \text{階建の} 2 \text{階} = 0.28 \cdot QKf12 = 0.3909$$

$$2 \text{階建の} 1 \text{階} = 0.72 \cdot QKf11 = 0.6031$$

サンプル 様邸

診断書作成日時: 2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部仕様		Qwi	Qw = \sum Qwi	Qei	Qe = \sum Qei	Qu Qw+Qe
桁行 (a)	14	1- 2	3 M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り	1.90 2.20	4.10	x	① 0.5175	x	0.9100	-	Ⅲ	=	1.93	1.93			3.73
	14	2- 6		窓型開口		0.60	x		x	3.0000			=			1.80	1.80	
桁行 (中央)	10	1- 2	KTG LB	⑦NEWかべつよし真壁G 【診断専用】ラスボード	5.60 1.00	6.60	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	6.00	6.00			6.81
	10	2- 5		掃き出し型開口		0.30	x		x	2.7300			=			0.81	0.81	
桁行 (b)	2	1- 2	3 LB M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.90 1.00 2.20	5.10	x	① 0.4450	x	0.9100	-	Ⅲ	=	2.06				4.95
	2	5- 6	3	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち	1.90	1.90	x	① 0.7300	x	0.9100	-	Ⅲ	=	1.26	3.32			
	2	2- 5		窓型開口		0.60	x		x	2.7300			=			1.63	1.63	
合計															11.25		4.24	15.49

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kj	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = \sum Qwi	Qei	Qe = \sum Qei	Qu Qw+Qe
梁間 (イ)	1	2- 5	3 LB M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.90 1.00 2.20	5.10	x	① 0.4450	x	1.2150	- III =	2.75	12.21	0.00	12.21
	1	5- 8	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x	① 0.5850	x	1.2100	- III =	2.26			
	1	8-10	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x	① 0.5850	x	1.2150	- III =	2.27			
	1	10-12	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20	2.20	x	① 0.6800	x	1.3650	- III =	2.04			
	1	12-14	3 M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り	1.90 2.20	4.10	x	① 0.5175	x	1.3650	- III =	2.89			
梁間 (中央)												0.00		0.00	0.00
梁間 (ロ)	5	4- 7	LB LB	【診断専用】ラスボード 【診断専用】ラスボード	1.00 1.00	2.00	x	① 0.7000	x	1.3650	- IV =	1.91	16.68	0.54	17.22
	5	7-10	LB LB	【診断専用】ラスボード 【診断専用】ラスボード	1.00 1.00	2.00	x	① 0.7000	x	1.3650	- IV =	1.91			
	6	2- 4	3 M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り	1.90 2.20	4.10	x	① 0.5175	x	0.9100	- III =	1.93			
	6	4- 7	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x	① 0.5850	x	1.3650	- III =	2.55			
	6	7-10	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x	① 0.5850	x	1.3650	- III =	2.55			
	6	10-11	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x	① 0.5850	x	0.9100	- III =	1.70			
	6	11-14	3 LB M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.90 1.00 2.20	5.10	x	① 0.4450	x	1.8200	- III =	4.13			
	5	2- 4		窓型開口		0.60	x		x	0.9100	=				
合計											28.89		0.54	0.54	29.43

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kj	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe
桁行 (a)	15	1- 2	C KTG	石膏ボード張り(厚9以上) ⑦NEWかべつよし真壁G	1.10 5.60	6.70	x	③ 0.7000	x	0.9100	III I =	4.26	12.46	0.81	0.81
	16	5- 6	KTF M	⑥まどつよしF 木ずり下地モルタル塗り	2.90 2.20	5.10	x	③ 0.7000	x	0.9100	II II =	3.24			
	17	1- 2	KTG M	⑦NEWかべつよし真壁G 木ずり下地モルタル塗り	5.60 2.20	7.80	x	③ 0.7000	x	0.9100	III I =	4.96			
	16	2- 5		掃き出し型開口		0.30	x		x	2.7300					
桁行 (中央)	10	1- 2	LB KTG	【診断専用】ラスボード ⑦NEWかべつよし真壁G	1.00 5.60	6.60	x	② 0.6200	x	0.9100	III I =	3.72	3.72		
	10	2- 4		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			0.54	0.54	4.26
桁行 (b)	2	1- 2	KTG M	⑦NEWかべつよし真壁G 木ずり下地モルタル塗り	5.60 2.20	7.80	x	② 0.6000	x	0.9100	III II =	4.25	13.33	0.27	0.27
	2	2- 3	M KTG	木ずり下地モルタル塗り ⑦NEWかべつよし真壁G	2.20 5.60	7.80	x	② 0.8000	x	0.9100	II I =	5.67			
	3	5- 6	KTG	⑦NEWかべつよし真壁G	5.60	5.60	x	② 0.6700	x	0.9100	III I =	3.41			
	2	3- 4		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100					
合計												29.51		1.62	31.13

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kj	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe
梁間 (イ)	1	2-5	3 M LB	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り 【診断専用】ラスボード	1.90 2.20 1.00	5.10	x ② 0.6950	x 1.2150	III	III	= 4.30	24.99			26.08
	1	5-8	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x ② 0.7900	x 1.2100	III	III	= 3.05				
	1	8-10	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x ② 0.7900	x 1.2150	III	III	= 3.07				
	1	10-12	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x ② 0.7900	x 1.3650	III	III	= 3.45				
	1	12-14	3 LB M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.90 1.00 2.20	5.10	x ② 0.6950	x 1.3650	III	III	= 4.83				
	1	14-15	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20	2.20	x ③ 0.6800	x 0.9100	III	III	= 1.36				
	1	15-16	C M	石膏ボード張り(厚9以上) 木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	3.30	x ③ 0.5850	x 0.9100	III	IV	= 1.75				
	1	16-17	3 M C	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り 石膏ボード張り(厚9以上)	1.90 2.20 1.10	5.20	x ③ 0.4800	x 0.9100	III	IV	= 2.27				
	2	14-15	LB	【診断専用】ラスボード	1.00	1.00	x ③ 1.0000	x 0.9100	III	III	= 0.91				
	2	15-17		窓型開口		0.60	x	x 1.8200			=				
梁間 (中央)	4	1-2	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x ③ 0.5900	x 0.9100	III	IV	= 1.71	7.17			8.25
	4	2-4	LB LB	【診断専用】ラスボード 【診断専用】ラスボード	1.00 1.00	2.00	x ② 1.0000	x 0.9100	III	IV	= 1.82				
	4	9-10	LB LB	【診断専用】ラスボード 【診断専用】ラスボード	1.00 1.00	2.00	x ② 1.0000	x 0.9100	III	IV	= 1.82				
	4	10-11	LB LB	【診断専用】ラスボード 【診断専用】ラスボード	1.00 1.00	2.00	x ② 1.0000	x 0.9100	III	IV	= 1.82				
	4	4-9		掃き出し型開口		0.30	x	x 1.8200			=				
	4	11-14		掃き出し型開口		0.30	x	x 1.8200			=				

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kj	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = \sum Qwi	Qei	Qe = \sum Qei	Qu Qw+Qe
梁間 (口)	5	15-16	L LB	ラスシートモルタル塗り 【診断専用】ラスボード	2.50 1.00	3.50	x ③ 0.5750	x 0.9100	III	IV =	1.83	16.29			
	6	1- 2	LB M	【診断専用】ラスボード 木ずり下地モルタル塗り	1.00 2.20	3.20	x ③ 0.5900	x 0.9100	III	IV =	1.71				
	6	3- 6	3 M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り	1.90 2.20	4.10	x ② 0.7450	x 0.9100	III	III =	2.77				
	6	6- 9	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20	2.20	x ② 0.9600	x 1.2700	III	III =	2.68				
	6	9-10	3 M LB	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち 木ずり下地モルタル塗り 【診断専用】ラスボード	1.90 2.20 1.00	5.10	x ② 0.6950	x 0.9100	III	III =	3.22				
	6	14-16	3 L M	【診断専用】筋かい木材30X90以上 釘打ち ラスシートモルタル塗り 木ずり下地モルタル塗り	1.90 2.50 2.20	6.60	x ③ 0.3400	x 1.8200	III	III =	4.08				
	6	10-14		窓型開口		0.60	x	x 2.7300			=				
合計											48.45			3.80	52.25

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

耐力要素の配置等による低減係数 $e K f I$

偏心率

		偏心率	配置による低減係数
2 F	X方向	0.01	1.0000
	Y方向	0.09	1.0000
1 F	X方向	0.06	1.0000
	Y方向	0.08	1.0000

		2階		1階	
		X方向の壁	Y方向の壁	X方向の壁	Y方向の壁
剛心座標	y_s, x_s	4.04	3.44	5.89	2.90
重心座標	y_g, x_g	4.10	3.19	5.60	3.20
偏心距離	e_y, e_x	0.05	0.25	0.29	0.29
弾力半径	r_{e-x}, r_{e-y}	3.81	2.77	4.61	3.56
偏心率	$Re-x, Re-y$	0.01	0.09	0.06	0.08

2階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
1	0.91	0.91	5.46	7.28	28.98	1.43	41.44	92.30	131.99	118.67	169.70
合計					28.98		41.44	92.30	131.99	118.67	169.70

1階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
1	0.91	1.82	5.46	8.19	28.98	2.15	62.31	92.30	198.45	145.04	311.84
2	0.91	8.19	5.46	10.01	8.28	1.43	11.84	26.37	37.71	75.35	107.75
3	0.91	10.01	1.82	10.92	0.83	1.43	1.19	1.13	1.62	8.69	12.43
4	3.64	0.91	5.46	1.82	1.66	1.43	2.37	7.55	10.80	2.27	3.25
合計					39.75		77.71	127.35	248.58	231.35	435.27

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

重心位置の計算

階	床面積 (m ²)	$\Sigma A_i \cdot x_i$	$\Sigma W \cdot x$	ΣW (kN)	重心座標 x_g (m)	$\Sigma A_i \cdot y_i$	$\Sigma W \cdot y$	ΣW (kN)	重心座標 y_g (m)
2	28.98	92.30	131.99	41.44	3.19	118.67	169.70	41.44	4.10
1	39.75	127.35	248.58	77.71	3.20	231.35	435.27	77.71	5.60

2階X方向壁

	Y座標 (m)	l_x	$l_x \cdot y$	$l_x X$ $(y-y_s)^2$
1	7.28	1.93	14.05	20.25
2	7.28	1.80	13.10	18.89
3	4.55	0.82	3.73	0.21
4	4.55	6.01	27.35	1.56
5	0.91	2.07	1.88	20.29
6	0.91	1.26	1.15	12.35
7	0.91	1.64	1.49	16.07
合計	26.39	15.53	62.75	89.62

2階Y方向壁

	X座標 (m)	l_y	$l_y \cdot x$	$l_y X$ $(x-x_s)^2$
1	5.46	2.56	13.98	10.48
2	5.46	2.56	13.98	10.48
3	5.46	1.70	9.28	6.96
4	5.46	4.13	22.55	16.90
5	5.46	1.93	10.54	7.90
6	4.55	1.91	8.69	2.37
7	4.55	1.91	8.69	2.37
8	4.55	0.55	2.50	0.68
9	0.91	2.27	2.07	14.50
10	0.91	2.76	2.51	17.63
11	0.91	2.90	2.64	18.52
12	0.91	2.04	1.86	13.03
13	0.91	2.27	2.07	14.50
合計	45.50	29.49	101.36	136.29

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階X方向壁

	Y座標 (m)	lx	lx・y	lxX (y-ys) ²
1	10.92	4.97	54.27	125.63
2	10.01	3.25	32.53	55.11
3	10.01	0.82	8.21	13.90
4	9.10	4.27	38.86	43.94
5	5.46	3.72	20.31	0.70
6	5.46	0.55	3.00	0.10
7	2.37	3.41	8.08	42.31
8	1.82	4.26	7.75	70.65
9	1.82	5.68	10.34	94.20
10	1.82	0.27	0.49	4.48
合計	58.79	31.20	183.84	451.00

1階Y方向壁

	X座標 (m)	ly	ly・x	lyX (x-xs) ²
1	5.46	1.72	9.39	11.23
2	5.46	2.78	15.18	18.15
3	5.46	2.68	14.63	17.50
4	5.46	3.23	17.64	21.09
5	5.46	4.08	22.28	26.64
6	5.46	1.64	8.95	10.71
7	4.55	1.83	8.33	4.95
8	3.64	1.82	6.62	0.98
9	3.64	1.82	6.62	0.98
10	3.64	1.72	6.26	0.93
11	3.64	1.82	6.62	0.98
12	3.64	0.55	2.00	0.30
13	3.64	0.55	2.00	0.30
14	1.82	0.91	1.66	1.07
15	1.82	1.09	1.98	1.28
16	0.91	2.27	2.07	9.03
17	0.91	1.76	1.60	7.00
18	0.91	1.36	1.24	5.41
19	0.91	4.84	4.40	19.26

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階Y方向壁

	X座標 (m)	ly	ly・x	lyX (x-x _s) ²
20	0.91	3.45	3.14	13.73
21	0.91	3.07	2.79	12.22
22	0.91	3.06	2.78	12.18
23	0.91	4.31	3.92	17.15
合計	70.07	52.36	152.10	213.07

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564 補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

劣化度による低減係数 dK

部位	材料、 部材等	劣化事象	存在点数		劣化 点数	
			10年未満	10年以上		
屋根 葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	2	
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある				
樋	樋・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
外壁 仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	4	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある				
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある				
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある				
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2	2	
バル コ ニ ー	手す り壁	木製板、合板	1	1	1	
		窯業系サイディング				こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある
		金属サイディング				変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	1	1	1	
	床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	1	1	1	
内 壁	一般室	内壁、窓下	2	②	2	
	浴室	タイル壁	2	②	2	
		タイル以外				水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある
床	床面	一般室	2	②	2	
		廊下	1	①	1	
	床下	基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2	
合 計			0	19	0	

劣化度による低減係数 dK

1 - (劣化点数/存在点数) =

0.9000

・補修後の診断における劣化低減係数の上限は0.9（現状が0.9を上回る場合は、その値）となります。

サンプル 様邸

診断書作成日時:2023年01月21日14:26 Ver. 3.0.2

物件コード: 1886564

補強案 1 0.20→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。